

令和6年度 水稻の生育情報 No.2

令和6年7月1日

農業経営課

1 気象概況

本年は梅雨入りが遅く、6月も平年並み～やや高い気温推移となっています。

<5月の平均気温>

<6月の平均気温>

岐阜市アメダス 19.6℃ (平年比+0.2℃)

23.9℃ (平年比+0.7℃)

恵那市アメダス 17.5℃ (平年比+0.5℃)

21.3℃ (平年比+0.5℃)

高山市アメダス 15.9℃ (平年比+0.3℃)

20.4℃ (平年比+0.7℃)

2 生育概況

表1－水稻の生育状況（岐阜県農業技術センター調 令和6年6月14日時点）

品 種	田植時期	生育ステージ	項 目	生 育 概 況		
				令和6年	平 年	前 年
あきたこまち	5月10日	分けつ盛期	草丈 (cm)	26.8	35.3	40.2
			茎数 (本/m ²)	226	228	314
			葉色 (GM)	38.8	43.1	49.3
			葉令	8.6	8.0	8.9
コシヒカリ	5月10日	分けつ盛期	草丈 (cm)	35.4	39.8	44.4
			茎数 (本/m ²)	433	280	364
			葉色 (GM)	42.7	41.7	47.7
			葉令	9.0	8.1	9.0
ハツシモ岐阜SL	5月10日	分けつ盛期	草丈 (cm)	32.2	35.1	41.6
			茎数 (本/m ²)	464	268	376
			葉色 (GM)	43.3	40.8	48.1
			葉令	9.4	8.1	9.4
ほしじるし	6月10日	移植直後	草丈 (cm)	-	-	18.7
			茎数 (本/m ²)	61	-	80
			葉色 (GM)	-	-	25.1
			葉令	2.3	-	3.1
ハツシモ岐阜SL	6月10日	移植直後	草丈 (cm)	-	-	20.5
			茎数 (本/m ²)	61	-	68
			葉色 (GM)	-	-	26.2
			葉令	2.4	-	3.1

表2－水稻の生育状況（岐阜県中山間農業研究所本所調 令和6年6月13日時点）

品 種	田植時期	生育ステージ	項 目	生 育 概 況		
				令和6年	平 年	前 年
たかやまもち	5月16日	分けつ期	草丈 (cm)	27.0	30.7	30.2
			茎数 (本/m ²)	329	387	286
			葉色 (GM)	37.2	37.1	35.2
			葉令	7.6	7.5	7.0
あきたこまち	5月16日	分けつ期	草丈 (cm)	25.0	28.3	27.6
			茎数 (本/m ²)	322	354	297
			葉色 (GM)	40.0	39.9	38.1
			葉令	7.6	7.6	6.9
ひだほまれ	5月16日	分けつ期	草丈 (cm)	28.5	31.6	29.8
			茎数 (本/m ²)	222	366	291
			葉色 (GM)	34.9	36.6	35.5
			葉令	7.6	7.7	7.3
ひとめぼれ	5月16日	分けつ期	草丈 (cm)	26.1	27.6	25.3
			茎数 (本/m ²)	295	472	318
			葉色 (GM)	38.6	39.5	36.8
			葉令	7.5	7.7	7.0
コシヒカリ	5月16日	分けつ期	草丈 (cm)	29.4	31.7	29.9
			茎数 (本/m ²)	324	436	304
			葉色 (GM)	37.6	38.7	36.2
			葉令	7.3	7.6	7.2

表3－水稻の生育状況（岐阜県中山間農業研究所中津川支所調 令和6年6月15日時点）

品 種	田植時期	生育ステージ	項 目	生 育 概 況		
				令和6年	平 年	前 年
あきたこまち	5月15日	分けつ盛期	草丈 (cm)	28.6	28.9	25.8
			茎数 (本/m ²)	278	279	279
			葉色 (GM)	39.0	41.7	38.9
			葉令	7.3	7.4	6.8
ココノエモチ	5月15日	分けつ盛期	草丈 (cm)	32.5	32.3	28.3
			茎数 (本/m ²)	328	299	274
			葉色 (GM)	37.5	39.5	36.7
			葉令	7.1	7.4	6.8
ひとめぼれ	5月15日	分けつ盛期	草丈 (cm)	31.8	30.7	26.3
			茎数 (本/m ²)	354	307	318
			葉色 (GM)	41.2	41.3	39.9
			葉令	7.0	7.3	6.8
コシヒカリ	5月15日	分けつ盛期	草丈 (cm)	33.9	33.4	30.8
			茎数 (本/m ²)	324	290	298
			葉色 (GM)	40.3	40.5	39.1
			葉令	7.0	7.4	6.9

3 栽培上の留意点

県下全域において田植作業が終了し順調に生育している。今後は水管理、雑草対策及び病害虫防除などを的確に行い、早期に有効茎を確保するよう努める。

(1) 水管理

田植後4～5日で活着するが、その後は田面が露出しない程度に湛水しておく。植付後3週間ほどが経過し、分けつ盛期に入ったら「間断灌水」へと移行する。その後、有効茎数が確保できたら「中干し」を行ったのち、間断灌水に戻す。そして、穂ばらみ期～出穂開花期には「浅水」とする。

① 間断灌水

水田の状態を見ながら湛水状態と落水状態を繰り返すことで、空気と水を供給しながら土の固さを保つようにする。なお、乾田か湿田かによって日数は異なるが湛水と落水の間隔を3～4日とする。

② 中干し

有効茎数（1株当たり茎数25本位）が確保できたら、田面に小さな亀裂が入る程度まで水田を干す。

【中干しの効果】

- ・湛水状態により発生する有害ガスを発散させ、根の活力を回復させる。
- ・土中の肥料分の分解を促し、吸収されやすくする。
- ・土を固めて、収穫作業をし易くすると共に地際から倒伏するのを防ぐ。
- ・余分な分けつの発生を抑えて、「秋落ち」を回避する。

③ 浅水

穂ばらみ期～出穂・開花期は、最も水を必要とする時期となるため浅水としておく。この時期に田面が乾いてしまうと、登熟に悪影響を及ぼすので注意する。

表4－水稻の水管理の目安

生育ステージ	水管理	摘要
分けつ盛期	間断灌水	3日湛水3～4日落水
有効茎数確保後	中干し	田面に小さな亀裂が入る程度
分けつ後期～幼穂形成期	間断灌水	
穂ばらみ期～出穂・開花期	浅水	飽水状態でも良い

※飽水状態とは、田土が十分に水分を含んだ状態をいう

(2) 中期除草

田植後、水田雑草が繁茂してきた場合は中期除草を行う。中期除草剤の使用に当たっては発生草種に適用のある除草剤を選択すると共に、農薬の登録情報に記載されている、使用時期や10a当たり使用量などを遵守する。

また、使用する中期除草剤が粒剤やジャンボ剤などの場合は、十分に湛水（水深5cm程度）してから散布し、その後1週間は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。

なお、広葉雑草を除草対象としたベンタゾン粒剤を散布する場合は、落水状態で散布し3日間は入水やかけ流しをしない。

(3) 追 肥

① ケイ酸質資材の施用

作付前の土づくり資材投入において、十分な量のケイ酸分が補給できていない場合には出穂の35日～45日前を目安としてケイ酸分の中間追肥を行う。

【ケイ酸の施用効果】

ケイ酸分には稲の茎葉を硬くする効果があり、施用により以下の効果が期待できる。

- ・倒伏や気象災害に対して強くなる。
- ・いもち病などの病害に罹りにくくなる。
- ・葉の受光体制が良くなり、登熟が向上すると共に食味向上も期待できる。

② 穂肥の施用

穂肥は、穂が出来始める頃（幼穂形成期）に肥料分を与える事で、稲体の栄養状態を良好とし、収数を確保したり登熟歩合を高める効果がある。しかしながら、穂肥の施用時期が早すぎると、茎の地際に近い第4・第5節間が伸びて倒伏を助長してしまうので幼穂長や葉色を見ながら、穂肥の時期を決定する。

なお、基肥一発肥料を作付時に施用している場合は、原則穂肥は不要とする。

表5－水稻の穂肥施用の目安

品 種	施 用 時 期	施用時の幼穂長	施用時の葉色	施用窒素量
コシヒカリ	出穂 16～18 日前	0.5～1.0cm	3.0～3.5	2.5～3.2 kg/10a
あさひの夢	出穂 25 日前	0.2cm	4.0	4.0～4.8 kg/10a
ハツシモ岐阜 S L	出穂 18 日前	0.5cm	3.5	3.2 kg/10a

※施用時の葉色は葉色板による数値

(4) 病虫害防除

一般的な移植栽培では、播種時または移植前に箱施薬を行っている事が多いが、移植後2ヶ月程が経過すると箱施薬剤の効果が弱まってくる。7月上～中旬は梅雨時期にあたるため、色々な病虫害が発生しやすい時期となる。本田防除や各種対策を励行し被害を回避に努める。

① いもち病

気温20～25℃、稲の水濡れ時間が10時間以上続くと発生しやすい。窒素肥料が過多で葉色が濃く、軟弱に育っていると多発する。発病場所によって、「葉いもち」「穂いもち」などといわれるが、葉いもちから穂いもちへ病害が進展する場合もある。

【いもち病の主な対策】

- ・ケイ酸質資材の施用、基肥及び穂肥の適量施用
- ・補植用苗の撤去
- ・出穂前の粒剤施用（残効性の長い薬剤）、出穂後の液剤散布（カメムシと当時防除）

② カメムシ類

梅雨明け後の気温上昇に伴い活動が活発化する。水稻の出穂期前後に畦畔や雑草地から侵入するため、出穂10日前までに水田周辺の草刈りを済ませる。

<水稻の高温障害について>

令和5年産米は7月下旬～9月の猛暑により高温障害が発生し、品質低下が見られた。品質低下の主な原因は白未熟米（背白粒・腹白粒・基部未熟粒）であったが、それ以外にもカメムシ類や紋枯病など高温を好む病害虫の多発も見られた。

6月20日に名古屋地方気象台が発表した、1か月予報によると向こう1か月の平均気温は高い確率が80%と予想されており、今年度の稲作も高温障害の対策を講ずる必要がある。

水稻の高温障害対策には、登熟期を高温から外す「高温回避技術」と高温に耐える力を高める「高温耐性強化技術」とがあるが、現在は各品種とも植付が終わり分けつ期にあるため「高温耐性強化技術」を中心に記載する。

	高温下で発生する現象	これからの対策
施肥	<p>○肥切れ → 稲株の栄養不足 → 秋落ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白未熟米の多発 ・ごま葉枯病の発生  <p>[背白粒] [腹白粒] [基部未熟粒]</p> <p>○葉温の上昇 → 光合成量の減少</p>	<p>○葉色経過を踏まえた、追肥施用（穂肥2回施用・緩効性追肥を含む）</p> <p>○葉からの水分蒸散増大（気化熱による葉温低下） ケイ酸・加里資材の中間肥 出穂の35～45日前</p>
水管理	<p>○地温上昇 → 根の活力低下 → 枯上がり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登熟歩合の低下 ・米粒の粒張り悪化（粒厚が薄い） <p>○高気温 → 稲穂の温度上昇 → 粃の急乾燥</p>	<p>○出穂期～登熟期の間断灌水、飽水管理、走り水 ※かけ流しは地域全体で用水が豊富な場合のみ</p> <p>○落水時期の後進</p>
病害虫防除	<p>○カメムシ類増殖 → 吸汁被害が多発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネカメムシ：不稔粃 ・斑点米カメムシ：斑点米  <p>[斑点米]</p> <p>○紋枯病の多発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲株の倒伏 ・登熟歩合の低下 	<p>○カメムシ類防除と畦畔草刈り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネカメムシは出穂前～出穂期 ・斑点米カメムシは出穂期～傾穂期 <p>○紋枯病防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂30日前頃
収穫・乾燥	<p>○高気温 → 生育前進化 → 登熟期間短縮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刈遅れ（胴割多発） <p>○稲穂の温度上昇 → 粃水分の急激低下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄米水分の低下 	<p>○適期収穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粃水分（25%前後）や帯緑粃率（10%程度）による判定 <p>○通風乾燥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通風乾燥ののち加温乾燥

